

ANA羽田機体整備場見学と安全教育受講

品質管理部会では、異業種の取り組みから改善のヒントを見つけることに主眼に置き、品質交流会を実施している。今回は最も厳しい品質管理が要求されている航空業のANAに協力を戴き、7月10日に羽田空港整備場の見学（参加34名）、8月6日にANAグループ全社員が受講するヒューマンエラーを中心とした安全教育の受講（部会員のみ4名参加）を実施した。

羽田空港の整備場見学

ANAの定時整備は大きく3段階に分かれているが、羽田整備場では飛行3,000~6,000時間毎の約1週間かかる中整備を実施している。整備に当たっては、作業の標準化、標準に従った作業の徹底。大きな事故は小さなミスの変遷から生じているという経験から、ポイント・ポイントのチェックにより変遷の環をどこかで断ち切ること、経験豊富な従業員による徹底した若手教育と技術の伝承などに努力が払われていた。



羽田のANA機体整備場

安全教育受講

社員の94%がANA最大の事故である1971年雫石上空での自衛隊機との衝突事故（162名死亡）のあと入社している。そこで、事故の恐ろしさを風化させず、一人ひとりの不注意が大きな事故につながることを実感し、ヒューマンエラーについて考える機会を与えるため、下丸子に安全研修センターをつくり、グループ社員3万人全員を対象に3年をかけて安全教育を開始している。

今年の3月から少数ではあるが一般の受講も受

け入れているので、部会員のみで受講した。

教育内容は、事故機の破片や遺品の説明、事故直後の生々しい映像の放映と事故原因の解説。続いて世界の航空機事故とその原因の解説など、ヒューマンエラーがどのようにして起こったのかと、ハード面での対策の説明があり、最後にヒューマンエラーについて体験を交えた講義を受講した。品質問題はヒューマンエラーとの戦いであり、引き続きテーマとして取り上げていく。